

学位被授与者氏名	小出 友視 (こいで ともみ)
論文題目	世界のウチナンチュ大会からみた沖縄国際交流 ーニューカレドニアの事例からー
論文審査結果の要旨	<p>「世界のウチナンチュ大会」については、「ナイチ(内地=日本本土)」にたいする「ウチナー(沖縄)」的ナショナリズムや本土からの差別意識と沖縄アイデンティティの形成などの側面から多くの先行研究があるが、本研究では実際に沖縄からニューカレドニアに渡った移民子孫の支援を通じて「ウチナンチュ」という概念を再検討している点に特徴がある。ただし、こうしたイベントをとおして新しく構築された「ウチナンチュ」についての分析についてはもうすこし踏み込んで議論する必要が感じられた。</p> <p>かつての沖縄の血縁地縁社会は、今でも形をかえて草の根的な人のつながりを形成している。論文では、マスコミによる歓迎報道の裏で、複雑な歴史を抱え沖縄在住の親族が簡単に受け入れることができない移民子孫の帰郷を、地域社会や第三者的な組織がささえていくという現実が明らかにされている。こうした組織自体は沖縄の伝統的な相互扶助のシステムに立脚しているが、本土の人間など直接沖縄社会に関係のない人まで巻き込んだ新しいあり方は、今後の沖縄社会を考える上でとても興味深いものである。</p> <p>なお、この研究成果は2012年3月末に岡山で開催される第29回日本オセアニア学会研究大会での発表を予定している。</p> <p>平成24年2月20日に、北九州市立大学北方キャンパス4号館4-101教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>